

競 技 注 意 事 項

1. 競技規則について

- (1) 本大会は、2026 年度（公財）日本陸上競技連盟競技規則ならびに本大会申し合わせ事項により実施する。
- (2) 本競技会については、以下の競技規則を適用する。
 TR4. 4（参加の拒否）、TR8. 4/8. 5（現場での抗議）は適用しない。
 TR24. 10（リレーメンバー）は〔国際〕を適用し、リレー競技のチーム編成は TR24. 12〔国際〕を適用する。

2. 練習場および練習について

練習会場利用日程及び注意事項

新潟医療福祉大学陸上競技場	種目	10月23日	10月24日	10月25日	備考
	トラック	13：00～16：30	7：00～8：00	7：00～8：00	①周回（アップ、ジョグ不可） 1～2レーン周回練習 (1日目のみ1レーン競歩)
					②ホームストレート 3～6レーン 短距離 7～8レーン ハードル
					③第一曲走路～バックストレート 4～5レーン 短距離 7～8レーン ハードル
	走高跳		7：00～8：00	7：00～8：00	
	棒高跳				
	走幅跳		7：00～8：00		砂場の整地は練習者が行う
	三段跳			7：00～8：00	
	投擲		7：00～8：00		全日サークル確認のみ (やり投げ足合わせのみ可能)

- (1) 上記の日程表に従って練習する。
- (2) 練習は、各チームの監督の管理のもと、指定された場所・時間帯で、事故防止に十分配慮して行う。
- (3) 練習時間・練習場所は、天候、状況によって変更や制限をすることがある。
- (4) 練習会場には、出場競技者、監督、コーチ以外は立ち入らない。
- (5) 練習会場では、係員の指示に従って練習する。
- (6) ハードル競技に関しましては男女4台ずつのみとする。
- (7) 投てき器具の貸し出しは行わない。
- (8) 本競技場芝生内でのウォーミングアップは禁止とする。
- (9) 雨天走路での練習は事故防止のため、逆走を禁止する。また、牽引ロープ及びミニハードル等の用具の使用は禁止とする。雨天走路の練習レーンは奥の2レーンのみ使用可能となる。ハードル種目の招集時間前にハードルの足合わせのみ可能にする(4台のみ置く)。
- (10) 100m、100mH、110mH、長距離種目(3障を除く)の競技時間中についてはバックストレートを開放する

バックストレート練習について

〈2. 練習場及び練習について(10)〉に記載の通り、バックストレートを練習会場として開放する。開放時間の詳細は以下の表を確認すること。表に記載の時間以外は開放を行わない。また、競技運営の進行状況や準備等の安全確保のため、開放時間を変更したり開放を予告なく中止したりすることがある。その場合はアナウンス及びウォームアップ場係の審判員の指示に従うこと。特に 7～8 レーンのみの開放時間には、周回競技に十分注意し、7 レーンよりも内側には絶対に入らないようにすること。

日付	時刻	注意事項
10/24	8:30～9:20	7～8 レーンのみ、スタート時に中断の可能性あり
	11:20～11:50	
	13:10～14:50	
	17:55～18:25	7～8 レーンのみ
10/25	9:50～10:05	7～8 レーンのみ
	13:55～14:45	7～8 レーンのみ

3. 競技場使用について

- (1) 本競技場は、全天候舗装である。スパイクシューズのピンの長さは、トラックでは 9mm 以下、フィールド（走高跳・やり投のみ）では 12mm 以下を使用すること。（競技場保護のため、先の尖ったピンの使用を極力控えること。）
- (2) 出場競技者は競技役員の指示に従って入退場すること。
- (3) 全敷地内は禁煙である。
- (4) 競技終了後は競技役員の指示に従い退場すること。
- (5) トラロープを跨がず、競技者出入り口から入ること。

4. 招集について

- (1) 招集所は 100m スタート付近に設置する。トラック種目、フィールド種目全て招集所で招集を行う。
- (2) リレー種目については、全員揃って招集を受けること。
- (3) リレーのオーダー用紙は招集所に提出すること。
- (4) 各係の指示に従って、各出発地点及び各試技場等で最終点呼を受けること。
- (5) 招集完了時刻に遅れた者は、棄権とみなす。
- (6) 同時進行種目への出場競技者は、あらかじめ「重複出場届」に必要事項を記入し、各競技招集開始時刻の 30 分前までに招集所に提出する。「重複出場届」は学連受付（クラブハウス棟）、招集所において配布する。
- (7) リレーメンバーに関しては「日本陸上競技連盟競技規則 TR24.10」〔国際〕を適用し、リレー・チームのメンバーは、どのラウンドにおいてもその競技会のリレー競技または他の種目に申し込んでいる競技者であれば、誰でも出場することができる。最初のラウンドに出場した競技者は、その後のラウンドを通して、最大 2 人まで他の競技者と交代することができる。また、オーダーは、学連受付（室内走路中央）、招集所にて配布する「リレーオーダー用紙」に必要事項を記入して、各ラウンドの各組の公表された first call time（その時間までに競技者が招集所にいなければならない時刻）までに招集所に提出すること。

5. 棄権について

- (1) 競技者の欠場は、2026 年 10 月 23 日（金）15 時よりクラブハウス棟多目的会議室にて行う代表者会議で受け付けた者のみとする。なお、代表者会議に出席できない参加校は、10 月 22 日（木）23：59 までに E メールにより北信越学連事務局へ参加校ごとに代表者が纏めて申し出ること（個別の申告は認めない）。ラウンドや番組の変更の可能性があるため、事前に欠場が分かっている場合はできるだけ申し出ること。
- (2) 当日やむを得ず棄権する者は、TIC(クラブハウス棟)にて「棄権届」に必要事項を記入し、招集開始 30 分前までに招集所に提出すること。

6. アスリートビブスについて

- (1) アスリートビブスは主催者が配付したものを使用すること。
※アスリートビブスは、今年度の北信越学生陸上競技対校選手権大会で配付したものを使用すること。また、北信越 I C 以降に登録した競技者は本大会で配付するアスリートビブスを使用すること。
- (2) アスリートビブスは、胸・背両面につける。ただし、跳躍競技においては、胸または背のどちらか一方でもよい。また、5000m、10000m、3000mSC、5000mW の出場者は、招集時に自身のアスリートビブスを持参し、配付される通し番号のアスリートビブスを腰につけること。
- (3) トラック競技出場者は、招集時に配付されるレーン番号の腰ナンバー標識をパンツ右側につけること。招集所にて自分の腰ナンバー(中長距離の通しビブス)を手にもって招集を受けること。4x100m リレーは第 4 走者のみ、4x400m リレーは 2～4 走者が腰ナンバー標識をパンツ右側につけること。

7. 用器具について

- (1) 競技に使用する用器具は、すべて主管者側が用意したものを使用すること。ただし、投てき物一覧に記載のないあるいは記載が1つのみの投てき用具については、当日事前に検査を受け、使用許可を受けたものに限り個人所有のものを使用することができる。
- (2) 個人所有の投てき物は種目を問わず、下記に示す時間・場所で検査を受けて許可されたものでなければ使用できない。検査を受けた投てき物は借り上げ式とし、競技者全員が使用することができる。

実施日	時間	場所
10月24日（土）	7:30～8:30	室内投擲場
10月25日（日）	7:00～9:00	室内投擲場

＊2日目の男子砲丸投げにつきましては、7：00～7：45の時間で投擲物の検査を行う。

- (3) 競技用靴について、「日本陸上競技連盟競技規則 TR5」の規定（「競技用靴に関する規程」を含む）を十分に留意すること。必要に応じて、靴底の計測を行う。

8. 競技について

- (1) 競技中における助力は「日本陸上競技連盟競技規則 TR6」に則り規制される。これに抵触する

場合は審判長から注意・警告をするが、是正されない場合はその種目から除外される場合がある。

- (2) 競技中における失格は「日本陸上競技連盟競技規則 CR18.5」ならびに「日本陸上競技連盟競技規則 TR7」に則り実施される。競技者がある種目で日本陸上競技連盟競技規則に定める競技者にあるまじき行為あるいは不適切な行為等、あるいは「日本陸上競技連盟競技規則 TR16.5」により2度目の警告を受けた場合は失格となる。特にスタートの遅延行為がこれに該当するため注意すること。もし、2度目の警告が違う種目で行われた場合は2度目の種目で失格となる。

(3) トラック競技

①レーン順はプログラム記載通りとする。

②短距離走では、競技者の安全確保のため、フィニッシュライン通過後も自分に割り当てられたレーン（曲走路）を走ること。

③男子100mは予選の記録上位8名でA決勝を行い、記録上位9～16名でB決勝を、記録上位17～24名でC決勝を導入する。また、男子200m、400m、800mは予選の記録上位8名でA決勝を行い、記録上位9～16名でB決勝を導入する。なお、B決勝及びC決勝の記録がA決勝の記録を上回っても表彰の対象にはならない。

また、A決勝の進出者が決勝を棄権してもB決勝からA決勝への繰り上げは行わない。同様に、B決勝の進出者が決勝を棄権しても、C決勝からの繰り上げは行わない。C決勝の進出者が決勝を棄権した場合についても同様である。

なお、C決勝→B決勝→A決勝の順に実施する。

④男子5000m、男子3000mSCにおいてはタイムレース決勝を導入する。

⑤男女5000m、男女10000mはグループスタートで行う。

⑥男女5000m、男女10000m、男女5000mWについては時間制限を設ける。それぞれ以下に示した時間までに残り一周に到達しない場合はレースを打ち切ることとする。

	5000m	10000m	5000mW
男子	20 分	40 分	30 分
女子	25 分	45 分	30 分

(4) リレー競技

①4x100m リレーの競技者は、自らが用意した大きさが最大50mm×400mmの粘着テープを1箇所、自らのレーン内に貼ることが許される。それ以外のマーカーの使用は認められない。その撤去は使用したチームが責任をもって行うこと。

②リレーに出場するチームは、同一のユニフォームを着用すること。

(5) フィールド競技

①フィールド競技における競技場内での練習は、すべて競技役員の指示に従うこと。

②跳躍種目及びやり投の競技者は、助走路の外側（走高跳は助走路内）に主催者が用意した規定のマーカーを2個まで置くことができる。ただし、走高跳のマーカーは競技者が用意すること。また、砲丸投・円盤投・ハンマー投についてはサークル直後あるいはサークルに接して、主催者が用意したマーカーを1つだけ置くことができる。これらの撤去は使用した競技者が責任をもって行うこと。

③三段跳の踏切板の位置は、男子は12m、女子は9mとする。

④棒高跳の競技者は、希望するアップライト位置を競技開始前に跳躍審判員に申し出ること。

⑤走高跳および棒高跳のバーの上げ方は下記の通りとする。

	練習	1	2	3	4	5	6	
男子走高跳	1m55	1m60	1m65	1m70	1m75	1m80	1m85	以後 3cm 刻み
男子棒高跳	2m90	3m00	3m20	3m40	3m60	3m80	4m00	以後 10cm 刻み
女子走高跳	1m25	1m30	1m35	1m40	1m45	1m50	1m55	以後 3cm 刻み
女子棒高跳	2m20	2m40	2m60	2m80	3m00	3m20	3m40	以後 10cm 刻み

(注) 第 1 位決定試技の際のバーの上げ下げは、走高跳は 2cm、棒高跳は 5cm とする。優勝が決まった後にバーを上げる場合は、競技者は当該審判員あるいは審判長に希望の高さを申し出てから高さを決定する。

9. 抗議について

競技進行中に起きた競技者あるいはチームの行為、または順位に関する抗議については、その競技者あるいはチームの監督が、その種目の結果の正式発表（アナウンス）後 30 分以内に、次のラウンドが行われる競技では 15 分以内に、学連受付（クラブハウス棟正面玄関）に申し出ること。その後、担当総務員を通して口頭で審判長に行く。その間抗議者は学連受付で指定する待機場所においてで待機すること。

10. 携帯電話等通信機器の持ち込みについて

TR6.3.2 よりビデオ装置、レコーダー、ラジオ、CD プレイヤー、トランシーバーや携帯電話もしくはそれらに類似した機器の使用を競技区域内で所持、また使用するような行為は助力とみなし警告または失格になりうる。

スマートフォン等の上記機器は競技区域内に持ち込めないで、出場種目の招集時に持参しないこと。

ただし、スマートウォッチにおいては、電波を発信しない状態（機内モード）に設定していれば、持ち込み・着用を認めるが、通信可能な状態であったことが判明した場合には助力とみなし警告または失格になりうる。

TR6.4.5 フィールド種目に出場している競技者が、当該競技者に代わり競技区域（TR6.1〔注意〕参照）の外にいる者によって録画された試技の映像を見ること。その録画再生機器や録画映像は、録画映像を提供する者のすぐ近くの位置であれば競技区域内に持ち込むことが認められる。画像をより詳しく見るために、競技者は画像を撮影した人とコミュニケーションを取りながら録画再生機器を手にしても良い。

11. 跳躍ピット撮影について

ホームストレート前は競技及び大会運営のため応援撮影等を含めて原則立ち入り禁止とする。ただし、跳躍競技の足合わせのための確認、コーチング、および周回競技のラップタイム計測のため各校 3 名まで入場可能とする。入場は 100m のスタート地点とフィニッシュ地点に設ける出入り口からのみとし、その際に専用の ID カードを持参すること。ID カードは学連受付の際に各校 3 枚ずつ配布する。

1 2. 表彰について

- (1) 表彰は各種目 3 位まで行う。該当する者は競技成績発表（アナウンス）終了後、表彰を行うので、**各学校の公式ジャージ等**を着用のうえ表彰待機場所（室内走路 幅跳びピット側）に集合し表彰係の指示に従うこと。該当者が他の競技に出場し、受賞出来ない場合は所属校から代理を出すこととする。その際に、表彰係に代理人であることを申し出ること。
- (2) 各種目 4 位～8 位には賞状を授与するので、学連受付にて受け取ること。
- (3) 男子 100m、200m、400m、800m は予選の記録上位 8 名で行う A 決勝レースのみ表彰の対象とする。
- (4) 最優秀選手（男女各 1 名）、優秀選手（3 名）にはトロフィーを授与する。

1 3 その他

(1) 応急処置について

競技中の事故等による身体の故障の場合、医務員が応急処置を行うが、その後の治療は本人または所属チームの責任で行うものとする。また、事故の結果について、本連盟は一切責任を負わないものとする。また、テーピングについて、競技中に捻挫等の故障をした場合は応急処置として医務員が対応するが、それ以外(怪我対策のテーピング等)は自己負担とする。ただし、2026 年度公益社団法人日本学生陸上競技連合普通会員は原則としてスポーツ安全保険に加入しているため、この保険が適用される場合がある。保険の適用に関する問い合わせは、学校受付(クラブハウス棟正面玄関)に申し出るか、《hokusinetsugakuren@gmail.com》に連絡すること。

TR：公益財団法人日本陸上競技連盟競技規則（Technical Rules）

CR：公益財団法人日本陸上競技連盟競技会規則（Competition Rules）」